



物流ニッポン

2008年(平成20年)

7 | 28 (月)

発行/月曜日・木曜日 第3152号

購読料/半年32,130円(月額5,355円、税込)

©物流ニッポン新聞社 2008 (昭和44年4月1日第三種郵便物認可)



「全員がそろって教育
を行える環境が整った。
コンプライアンス(法令
順守)の徹底を図るとも
に、顧客に対して新た
な価値、サービスを創造
していきたい」。こう語
るのは塩釜トラック(及

塩釜トラック

川功社長、仙台市宮城野区)の及川正雄専務。五十平方が、建物は二階建てに分けて実施して、延べ床面積が三百一十坪。新社屋では、一堂に町から仙台港地区に新築十七平方が、一階が事務会して研修ができる。移転した。
日本社が手狭となったイパーと事務員の一体感を集めての安全大会や荷こと効率的な配車を行を増やすために、同じ主企業の担当者を招いてうため、加盟している仙ロアに配置した。二階に安全講習会も開催した

地域密着サービス提供

台港運送事業協同組合 応接室やシャワー室などという。
(大須賀啓理専務)の一に加え、約百平方が(六) 移転では旧本社と仙台角にある同社の仙台営業(十畳分)の広さを持つ大 営業所(現本社)の配車所に移し、旧本社は塩釜 会議室を設置。椅子と机で非効率な面があったは営業所とした。
を並べても、八十人が収か、営業活動を行う上で容でできる。
も、本社所在地が「七ヶ
会議室も設置しドライ
「従来は、安全研修を浜町」よりは「仙台市」
バーに安全研修を行う
行つにも、広い会議室がのほがが優位という理由

将来見据え、新策・本社移転

もあった。
仙台市は東北の中心都市で、知名度が高い。仙
台港も自動車産業の宮城
県立地で注目を集め、貨
物取扱量も大幅に増える
とされる。その一角に着
板を出せることは営業面
でもプラスと判断。
「将来を見据え、仙台港
地区への移転を決めた。
創業四十五周年にも当た
る。社員教育もできる
し、福利厚生面の充実も
図れる。安全管理の徹底
を進め、地域に密着した
サービスを提供したい」と
話している。
(黒田 秀男)